

外国為替保証金取引（FX）

為替と株価は密接に関連しています。（特に最近はその通りです。）

為替の動きを把握し、先を読むことは株式投資には欠かせません。

ここでは、為替の動きをつかむために外国為替保証金取引（FX）について説明します。

最低金額でポジションを持ち参加することは、為替情報に敏感になり株投資の成果につながると思います。

また、株投資の短期（デイトレーダー的）投資には相通じる部分があります。

一般FX投資家 熟達10段階（テクニク編）□

レベル1	未経験者 何も出来ない。
レベル2	初心者 取引をすることができる。自己判断では出来ず、人の真似をする。ポジション持つと不安で上がっても下がってもすぐに
レベル3	取引には慣れたが、勝つより負けが多い。負けの原因が分からない。
レベル4	儲けが出始める。しかし、損するときは大きく、結局儲からない。
レベル5	押し目で買えるようになる。利益が出始める。
レベル6	上昇する相場にリスクを限定しながら買い乗せができるようになる。利益に加速が付く。
レベル7	ストップロスが使えるようになる。利益確定がきちんとできるようになり安定感がある。
レベル8	取チャートを見るだけで、だいたい先が見えるようになる。売買頻度は高い。小さな動きでも取りにいく。相場をやっていることが好き。巷で言う相場のプロ。
レベル9	待つことが多くなる。相場を遠めに眺めていることが多くなる。少しずつポジションを作ることもできるし、ここぞと言うときに大量にポジションを作ることもできる。（繊細さと大胆さをあわせ持つ）良い意味でお金をお金と思わないで扱うことができる。真の投資家。
レベル10	相場はほとんど見ないし、ポジションもほとんど動かさない。毎日多額の金利を受け取り、含み益も膨大にある。最終ゴール

ホームランは損者（敗者）の為にある。

取引レートを見ていて一喜一憂しないこと。（冷静であること）

★★★失敗例

ポジションをとるのが早過ぎた。
ポジションをとるのが遅過ぎた。
決済が早過ぎた。
決済が遅過ぎた。（持ち過ぎた。）
ストップ・ロスを無視した。
欲を出し過ぎた。
神経質になり過ぎた。

- 1 小刻みなトレードがうまくいって、連戦連勝し、こつこつと貯金を作った。だが、その後、一回のトレードで大損して、結局積み上げた分を全部すってしまった。
- 2 少し損したら止めようと軽い気持ちでドルを買った。その後、相場はじりじりと下がったが、もう少し様子を見ようと思っているとまた、じりじり下がってしまった。少し戻ったら止めるかと見ているうちにまた下がり、結局切れなくなって金利差もとれるし、預金だと思ってじっと持つかと方針を変えてしまった。
- 3 アメリカの景気が良くなると予想してドル買いのポジションを持った。予想通り出てくる経済指標は良好なものばかりであったが、何故かドルは上昇せず、そのうちに逆にズルズル下がりだしてしまった。
- 4 レンジ相場の中で、抜けたと思って高値で買ったが、下がったので売ったらそこが底値になり相場は反転。気を取り直して買い向かったが、またもや相場は下がって切る。それなら今度はと下攻めをするが、上げられてあえなくロスカット。気がついたらレンジ相場の中で、何度もやられていた。
- 5 負ければ負けるほど、一気に取り返そうとして、段々一回の取引金額（ポジション）が大きくなってしまった。
- 6 上がったなら売ろうと思っていて、指値注文（オーダー）を置いていたが、指値の手前のところで相場が息切れして反転してしまい、結局売れずに終わってしまった。
- 7 円安にいくと予想して、ドル円を買っていたが、ちょっと下がったところで弱気になってやめてしまう。また上がりだしたので再び買うが、また弱気になって止めてしまう。こうしたことを繰り返しているうちに予想通りドンドン円安になっていったが、結局儲けからなかった。「方向は合っていたのになあ」と嘆くばかりであった。
- 8 ここを抜けたらやばいと思って、ストップオーダーを入れていたが、そのストップオーダーがついた途端に相場が反転してしまった。
- 9 いつかは円高になると思って円買いポジションを持っていたが、全然行かないので面倒になって閉じた途端に円高に行き始めた。
- 10 いきなり、自分が取れる目一杯のポジションを取ったために、相場が少し逆にいっただけなのに、閉じなくならなければならなくなってしまい、かつ、その後もしばらく身動きが取れなくなってしまった。
- 11 大きなトレンドを取って、大きく儲けたが、その後の乱高下の相場で派手にやりすぎて、トレンドで買った分を全部吐き出してしまった。
- 12 プロのトレーダーが言ったことを真に受けて、相場を張ってみたが、結局逆の方向にいて損をした。「あいつの言うことを聞いたから損しちゃったよ」とそのトレーダーを恨んだ。
- 13 自分は円安に行くと思っていたが、あまりに周りの人が円高にいくというので、不安になって止めてしまった。その後、結局円安になった。

人が移動することによってついて回るもの、一番典型的なものは旅行です。日本人が集中的に海外に出かける時期、例えばゴールデンウィークや夏休み、お正月などの前には日本円を外国通貨に買えて海外で使ってくるので、円は売られやすくなります。

その他では、海外の現地法人から本国へ送られてくる利益送金や配当金などもあります。これなども相対的にそれほど、大きな金額ではないのですが、季節的なものなので、先程の旅行のケース同様、ある時期に集中して発生することが多いので、注意しておく必要があります。例えば米国の企業は12月決算の会社が多いので、12月になると海外の現地法人や支店から本国に利益を送金する動きが集中してドル買いがまとまって発生するといったようなことがあります。

ヨーロッパは比較的に景気が良く、お金が潤沢にあったんです。そうした環境の中で、欧州の企業によるアメリカ企業の買収ブームが起きていて、ホットマネーがヨーロッパからアメリカに大量に流れていたのです。もちろん他にも原因はあったのですが、このうねりがユーロ下落の大きな原因でした。結局ユーロは2年間で40%近く下落してしまっただけですが、ヨーロッパは景気がいいのに通貨は売られていくといく変な現象が起きたわけです。

第一段階（黎明期）～まず、本当に一部のプロの投資家が一部の秘密情報や独自の分析などにより動いてポジションを仕込む。この時期、相場は仕込んだ方向には大きくは動かない。

第二段階（本格期）～徐々に起きていた現象に気が付いたプロの機関投資家と一部の個人投資家が次々と動き始める。この時期に、相場が本格的に動き始めて、トレンドが形成されていく。

第三段階（終焉期）～大衆（多くの個人投資家や一部機関投資家）が動き出す。このとき仕込み時期にポジションを作ったプロは逆に刈り取りをしている。売り買いがぶつかり合うため最初は高値或いは安値圏で激しい乱高下をしばらくする。その後、第二段階から参加していた投資家が手仕舞を開始。トレンドは完全に崩れ、相場は本格的に反転していく。

残された大衆は反転のスピードの速さに呆然と見つめるだけで固まる。ようやく現実を受け入れロスカットをすると反転も終了して、ゲーム終了。「兵ものどもが夢の後」どうしてこういうことが起きてしまうかという、原因は乗り遅れてはいけないという恐怖観念にあります。1つの群集心理ですね。「あそこの××さん、ドル買っていて、数百万儲かったよ？」なんて話をいくつも聞く。気になってチャートとか見ていくと、あまり戻りもなく上がり続けている。「みんなこんなに上がっているものを買っていたのか。俺も乗り遅れちゃ損するな。しかも、チャート見るとまだまだ上がるように見える。これはまだまだ上がるな、ひょっとしたら青天井かもしれないな」と思う。そう思うといつもたつてもいられず、反対にいったらいくらで止めるかもろくに考えもしないで、市場に飛び込んでいく。逆に気の効いた人達はしめしめとばかり、いち抜けたをしていく。

ここからが更にややこしい。例えば第一段階でドルを買った人達は、第三段階でドルを売ろうと思ったとき、大衆が買いに向かっていくので、簡単に良い執行レートで止められます。気持ち良いですね。ところが、第三段階で買った人はそうはいかない。最初は乱高下するので、ちょっと反対方向に言っても、戻ってくるので、ほっとして様子を見る。その後市場が反転し始めると今度は流動性がなくなって、豪雨の後の川のように動きが加速する。こうなると、やめようと思ってもなかなかプライスに追いつけない。プライスが出て、あまりの悪いレートに「そんなレート叩けるか」と固まって更に負ける、というパターンを繰り返す。悪循環です。相場は流動性の高いときに止めるのが鉄則です。

人はある現象が本格的に顕在化したとき、特にまわりに具体的な例を見せ付けられたときや、視覚に訴えるようなものがあった初めて動く傾向が強く、そこを本当のプロに利用されてしまうわけです。

例えばいい例が新聞報道です。日経新聞などの経済面は出来るだけ起きていた現象を伝える記事が多く、今起きている流れを紹介してからそれでこの先どうなるの？という展開をしていきます。つまり、もう起きてしまったことを報道しているわけです。それを受けての専門家の今後の予想も、まだまだいくといったほうが受けがいいのでどうしても、バイアスが働いたコメントになりがち。

ですから特に新聞で大きく取り上げられたときは要注意です。流れが8合目以上に来ている兆候の可能性高い。私は個人的にこうしたシグナルは大変注意して見ています。「へそ曲がり世に憚る」です。

FX投資方針を以下のように決め、今後はそれに従って行く。また実績を考察し追加・修正して行く。

としちゃんの3原則

- 1 ポジション設定時に同時に利益確定、ロスカットを必ずに出す。（**少なくともロスカットは必須**）
どの値で出すが一番の課題。そのときの相場の動きの大きさ（波乱状況、強さなど）により決める。＝スキル
下記方法で利益が出ないときは読みが間違えているのであり、何故間違えたのかを分析しスキルを上げていく。
方法①同じ幅で出す。（ex. 現在値±0.5円でそれぞれ出す。）
ポジションを持った時点では利益確定の方向に行くかと判断したはず。従い5割以上の確率で利益確定になるはず。
方法②利益確定a>ロスカットb(ex. 110円で買いポジションを持った場合、利益確定を111.5円、ロスカットを110円で出す。）
利益確定、ロスカットの確率はそれぞれ5割。したがって期待値は利益確定の方が大きい。
- 2 決算後のアクション
 - ①ロスカット後
一定期間（ex. 24h）又は、更にロスカットの方向に更に一定幅動かない場合は新規にポジションを持つてはいけない。
（ex. 110円買いで119円でロスカットした場合、118円以上の円高になれば新規の買いポジションを持たない。）
しかし、これは臨機応変に行わなければいけない。そのときの流れの強さ、方向、もみ合い状況などから判断する。
 - ②利益確定後
 - ①の規制は設けない。逆に出したほうが良い。
（ex. 110円買いで111円で利益確定した後、110.5円になったら買いポジションを持つ。）
- 3 利益確定、ロスカットオーダーの修正
 - ①思い通りの方向に行っていない場合
原則修正は厳禁。
これを守るのが難しい。ロスカットされ直ぐに値が戻すような感覚を強く持つ。この可能性は大きい。ロスカット値を修正する（又は削除する）と損害を制限できなくなり立ち直れない損害を出す場合が年数回発生する。＝危険大
 - ②思い通りの方向に行っている場合
現時点をポジション設定時と考えて利益確定値、ロスカット値を修正する。＝利益は大きく。

反省点

☆ 方法

少なくとも半年、1年、中期の自分の読み（トレード）を持つ。

自分の読みの方向に対してのポジションに対してはデイトレイド的な対応はしない。少なくとも1週間以上通常のときはデイトレイドは決して行わない。少しレイトは少し見るだけで常時見るようなことはしない。自分の読みに対しての逆ポジションは原則的に持たない。

逆ポジションは、流れが行き過ぎたときと判断したときのみ持つ。
逆ポジションを持ったときは、超短期で精算する。（デイトレイドを行う。）
逆指定を行い、この値は緩めないこと。（読みがはずれたのであり流れに逆らわない。）
読みが当たっているときは、指値、逆指値を切り上げていく、このとき幅を狭めていく。
利益は大きくとる。少しの利益で清算しない。（短期で行わない）
高チャンスと判断した場合でもFX資金を追加しないこと。
（為替は巨大な資本の株と考えるべき→大きな流れしかない。チョットした売買では値は動かない。）